慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	趣味ある経済資料
Sub Title	
Author	井上, 友一
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.2, No.4 (1909. 11) ,p.275(39)- 290(54)
JaLC DOI	10.14991/001.19091101-0039
Abstract	
Notes	講演
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19091101-0039

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

講演

趣味ある經濟資料

慶應義塾理財學會に於て

法學博士　井上友一

丁度昨今役所の方で色々この經濟問題、社會問題に屬する材料を陳列致して居ります、歴史上に屬するもの、又現在の事業等を列べて居ります、夫れで今日は此等の材料數種に付て御話し致す考であります。

先づ佐藤信淵翁に付て一寸御話を致します、佐藤信淵は日本で人口が殖へて食物が足りなくなると云ふことを最初に心配した人であります。最前添田博士は食物の問題をどうするかと云ふことを、最後に言はれました、實は一昨日も地方から來て居る人に吾々共申したのであります、食物問題が將來困る。今世界で人口が減つて困つて居る國は佛蘭西である、人口が殖へて困るであらうと云ふ國は、日本も其中にどうしても數へんければならぬ、其時に表を配つたのであります、其表に依りますと、世界の國で人口の最も多い國を上から數へると云ふと、日本は第七番目に屬します。それから少い方から數へると云ふと日本は四十七番目にある、モンテネグロなんと云ふ國は三十萬しか無い、丁度日本の京都位しか無い小さい方から數へると四十七番目の上位に位して居る、人口の多いと云ふ點から見ても、第一流國であると云ふことが分る。それから人間の密度です。狹いが人間が餘計居ると云ふ方から言ふと、世界で第四番目に位して居るのであります。斯う云ふやうな有樣で段々進んで行きまして、添田博士が言はれる通り食物問題が餘程困難になつて來る。佛蘭西の如きものは人口が增殖せぬで減つて居ります、一週間前に佛蘭西の議會の報告書が參りましたが、どうして人口を增殖させると云ふことを非常に研究致して居ります、其時分ソルボンの大學の教授の意見には將來三人以上子供を持つて居る者は、總ての稅を免除してやらうと云ふ法案を出すと云ふ

議があつた、日本などでさう云ふ事をして戴いたら非常に結構な事で、私など現に三人以上子供を持つて居る。又社會研究會の一員の建議に依ると云ふと、三人以上子供を持つて居る者でなければ、縱し高等文官試驗を通過しても役人にせぬと云ふことである、それから縣會議員であるとか、町村長であるとか、名譽職などにも當選することを許さぬと云ふ、さう云ふ法案を研究して居る國は、佛蘭西より外にありませぬ、人口が少いのですから殖民地があつても繁昌致さぬのです。此食物問題の形勢を憂へて、玆に既に數十年前に於て佐藤信淵は農業政策の事を研究致したのであります。丁度この一週間前に佐藤信淵先生の御祭が、秋田縣にありました、天皇陛下から特に祭祀料を戴いたと云ふやうな次第であります、澤山著述はありますが私は最後に著はされた所の種樹園奥秘と云ふ書物を諸君に御紹介したいのは、之を以て佐藤信淵翁は末後の著述にして居ります、最後の著書として世の中に出したと云ふ點から起るのであります。

一體佐藤信淵先生は非常に研究家でありまして、今でも日本に遺つて居りますのは、上野の下に――今はもうありませぬが雁鍋と云ふ料理屋がありました、あれへ佐藤信淵先生が登られたことがあります、下女に命じて暫くの間庖丁と俎板を貸して呉れ、唐襖をしめて當分覗いて呉れるなと云ふことであります。見るなと言ふと見たいものでありまして、何事が始まると思うて襖の隙間から見た所が、女の首を出して頻りに先生庖丁で切つてござる、下女が驚いて其事を亭主に告げた、所が亭主がさう云ふ迷惑な者は歸つて貰ふより外はないと談判に及びました所が初めて分りました、天王寺の裏の墓場で屍骸の外へ出て居りましたのを見付けて、それを持つて來てさうして庖丁を以て頻りに解剖の研究をして居つたのであります。先生はさう云ふやうな熱心な人であつた。近頃信淵翁の書物は段々編纂になりましてでございますが。最後の種樹園奥秘と云ふ本に就て私が深く感ずる

點は、序文の一節であります、斯う云ふことを書てあります。

余は弱冠の時より物産經濟の學を好み世界に遊歷し足跡殆ど天下に普し。然れども只徒に數多の星霜を經たるのみにて、人世に寸切あること無し。今歲八十に迫り其死に濱するに及で、多年怠敖り素餐せしを悔痛て些少しなりとも善事を行ひ、聊其失を補んことを欲するも、亦晩暮の至なり。然れども朝聞レ道夕死可也と云ふ聖訓あり。故に晩暮を顧みず此法に就緒れり。其發端は田舍の風俗を熟視するに、貧乏百姓父母を養ふ衣食不レ足に因み、其妻懷姙すると雖も、密々墮胎隱殺して小兒を育ふこと能はざる者多し。人性誰己が子を愛せざる者あらん乎。然るに斯酷虐に至ることは、饑寒の窘急に堪さるが故なり。愚老之を悲み濟救せんとを欲すと雖も、臭賤の身にて奈んともすること能はず。因て熟案に、予の家世々農政物産の學を講明するを以て、草木耕種の法に老練せり。若蓄積ある人を勸めて、荒野を開發し。種殖培養の妙を盡して、潤澤の最も多き物産を興し、先づ催主を富ましめ、其餘慶を以て貧乏百姓の衣食を足し。非命に殺さるべき小兒を救ひて、此を養育し、一人たりとも生民を滋息すること有らば、國家の洪恩を報じ、上天の大德に答ふるの一端ならんことを察して此種樹園法を編成せり。

と云ふことを書いてある、八十歳になり致々汲々として勉強して此本を遺されたんですから、諸君に御紹介して置きたい、此種樹園なるものはどうすると言ふと、詰り貧民を移して開墾の仕事をさせる、何所で先生此計畫をやらうとしたかと言ふと、今の埼玉縣浦和の近在に鹿手袋と云ふ所があります、其所が先生の隱居所であります、其所に計畫を立てやうとしたのであります。併ながら天其齡を藉さずしてとう〳〵亡くなられたのです、十町歩に十五町歩の耕地卽ち荒地を求めて、それで其何十名の貧民を移してさうして計畫を立て、其中にはお寺又は伊勢の太神宮を象つて社を置き

さうして一戸に何町歩かの地面を授けて、尙ほ作大將と名けて卽ち農作の指導をし、若くは奬勵する人を置き、尙ほ支配人を置いてさうして關墾を始めるのであります。何年か經つと云ふと何萬兩と云ふ金が儲かる、其金の一部を以て之を國家に獻納すると云ふ法まで立てたのであります。尙ほ其種樹園の終りにも「國家第一の政治は農業なることを察せよ」と彼は書いて居るのであります。卽ち先生は農業本位の方で當時は又さうであつたのでありませう、是が誠に能く近頃西洋あたりで遣つて居りまする移民の仕事と似て居るのであります。諸君も御承知の通り、一昨年こちらへ參りましたブース大將の如きも、澤山倫敦などの貧民を加奈陀へ移して、移民事業をやつて居ります。卽ち之に外ならぬのであります。又近頃田園都市なんと云ふことが流行ります、職工を都會に置ては健康を維持することは出來ぬ、風儀も紊れる、將來田舍の方へ會社を移すか、職工だけの住宅は田舍の方へやつて一戸に就て何反歩かの地面をやつて置く、彼等は百姓のことを知つて居るから、何時何所へ移民しても差支ない、さう云ふやうな話と少しも違はぬのであります。既に此點に於て西洋の書物を學ばずして着眼して居られたと云ふ點は、私は所謂オリヂナリティーに富んで居る話と思ひます、是は是たけに致して置きます。

次に御紹介したいのは松雲公と云ふ人の事業であります、本名は綱紀と云ふのです。此人の事業の中に百工比照と云ふことがあります、色々な工藝品を比較研究したのであります、今日で言へば工業陳列事業或は商品博物館と云ふものに屬するのであります、今より百五十年前に生れた人で、此點に着眼したと云ふのは面白い、それも普通の商人に依て出來たと云ふのでなくして、大藩の藩主自から之をやられたと云ふ點を、諸君に御紹介致して置きたいのです。第一此綱紀と云ふ人は非常なる長壽をした人であります、三歲の時に藩を襲いで八十二歲まで生きて居つた人です、其在職の期間が七十九年。公けの職に居ることの永い人

は、支那の乾隆帝の如き、康熙字典を選ばれたあの方でありますが、此人などは隨分永いのでありますが、併ながら三歲の時より七十九年間職に居つたと云ふ人は甚だ珍らしい、世界に於て勤續者の最も著しいものぢやアないかと思つて居る、三代將軍の時に職を襲がれて八代將軍吉宗公の時まで居つた人です。此百工比照の眞物を、日英博覽會に實は出したいので、吾々共勸めたのでありますが、家の重寶と云ふので承諾を得ませぬ其百工比照は繪に畫き又は寫眞に撮つて出すことに致して居ります。例へば材木の標本など非常に集めて居ります、紐なども各國の紐などが集つて居ります、況や目貫のやうな物とか、彫刻の如き物は非常に澤山集つて居ります、前田家で又展覽して、諸君に御覽に供するやうな時があるかも知れませぬ、兎も角さう云ふ點に早く着眼したと云ふ點を諸君に御紹介して置きたいのです。

又百工比照をやりますに就ては、材料の研究をしなければならぬ、從つて動植物を非常に研究した人であります。先達て皇太子殿下が北陸地方へ行啓になりました際に贈位になつた人で、有名な人は室鳩巢先生の如き人があります、是は日本では忠臣藏と云ふものを初めて著るしい人にした、彼の義人錄と云ふ室鳩巢先生の本に依て、初めて義人と云ふ名を得たのでありますが、其點に於て能く知つて居るが、其他にでく篤實なる學者で、其當時餘りに世に重んじられない所の、動植物を研究して、特に贈位を受けたと云ふ著しい人は稻若水と云ふ人です。此人を使つて綱紀と云ふ人は動植物の研究を致した、最前添田博士は西洋の經濟學說の中に、日本の學者の名が一人も出ぬと云ふことを申されました、此綱紀と云ふ人はそれと同樣の考で、支那の書物に日本の人で名の載つて居るものは一つも無い、是ほどどうも情けない話はない、自分はどうか人の未だ手を着けぬ所の藥物の學問、從つて動植物の研究をして、其點に於てどうぞ支那の學者の書物に、自分の名が載るやうにしたいと云ふ發願をしたのであります。從つて

此稻若水を用ゐて非常なる研究をした、其動植物の標本を集めたものが遺つて居ります、是は寫眞として役所に出してあります。和蘭の國へお前の國に郭公と云ふものがあるかどうかと云つて詮索にやつた手紙なども寫眞に撮つてあります、此人のやつた仕事で今度日英博覽會へ出す考に致して居るのが一つあります、それは此松雲公の始められたレーボアーコロニーであります、卽ち移民農業の仕事であります、佐藤先生の種樹園と云ふことに關聯して此事を一言しなければならぬのです

信淵翁より未だ少し前に、貧民を移して農業をやらうと云ふことを企てたのは、此綱紀と云ふ人であります。抑々移民農業と云ふことは、和蘭が卒先であつたと私は記臆して居りますが、それも今から五十年若くは六十年ほど前であります、それよりまだ前に當つて此移民農業の事を實行致したのは、日本では此人であります。初め金澤の城下に非人小屋を造りまして、是は今の所謂授產場であります、自分の領內に一人の貧民なからしめたいと云ふのは、此松雲と云ふ人の發願であります、所が中々多い、而も天明の饑飢の後を承けて非常に多い、已むを得ず非人小屋なるものを造つて其所へ皆入れた。中には其非人小屋の中で刀を作つたやつがある、是が有名なる淸光と云ふ人であります、名人でありますから澤山の刀を作らぬのであります、又刀を作つても自分の氣に入らぬと直ちに打壞す、とう〳〵非人となつて小屋の中へ入つて來た、併ながら技が出來ると云ふので、特に扶持を貰つて居た、此非人小屋で拵えた刀が非人淸光と銘を打つて、名刀の中に數へられて居るのであります。併ながら永く此小屋の中に貧民を留めては不經濟である、そこで今の片端新田と云ふ村へ之を移しました。此村の盡を博覽會へ封建時代に依て打建てられたるレーバコロニーと斯う大きく書いて出す積りであります。此村は元は非人ばかりでありましたが、今は出世しました者も澤山ある、其中には商業會議所の會頭なんと云ふ人も出て居ります、今日は既に產業組合も出來れ

ば兒童なども皆就學と云ふ有樣です。綱紀と云ふ人の靈を祀つて松葉神社と云ふ神社も眞中に出來て特に非常に景色の佳い所ですから、若し修學旅行にでも御出でになつたら、一度は廻つて御覽になる値打があらうと思ひます、此寫眞も役所に出て居りますから、是も經濟資料として諸君に一遍御覽を願ひたいのです。

それから第三に御紹介致して置きたいのはウヤッコックの著書であります、此人の論は經濟と云ふ問題に、敎育訓育と云ふ問題を決して忘れてはならぬと云ふ說であります。是は申す迄もないとで、現に此慶應義塾から立派な實業家が澤山出て居られるのにも、此敎育の本身たる義塾があるからであります。降つて徒弟職工の敎育と云ふことを忘れては、經濟問題の本當の解決は出來ぬ、國の生產力を增すのは、卽ち根本は是れであると云ふ說明であります。事實に就て詳しく書いてあるので、諸君の御一覽を願ひたいのです。でく臭近なるものゝ日本の現在の實例を申しますと、神戶に早朝學校と云ふ學校があります、夜では間に合はぬ朝敎育するのでありますから、卽ち職工徒弟が工場へ行く前に之を敎育する所を名けて早朝學校と云ふのであります。英吉利にはナイトコンチニューションスクールと云ふ夜續いてやる夜學校は澤山ありますが、モーニングスクールと云ふのは英吉利にも未だあまりせぬ、それが日本にはあります、澤山徒弟が參つて居ります。近年其中で一つ發明を致した者があります、ブレーキバンの發明をしたのであります、汽車と汽車とがステーションなどで合ふ場合に之を緩和して、ひどく衝突をさせないやうに自由自在になる一種の機關でありますが、當時大阪で共進會をやりました時分に、獨逸からもブレーキバンの雛型を出しました、所が別に學んだのでありませぬで、偶然一職工が作つたものと同一でありました。其職工は牛場氏が統裁して居つた關西鐵道の職工であります、初め敎えない時には始終工風はして居つた、何だか知らないが汽車がステーションへ着くと頻りに機

械を見て居つた、併しそれを圖に拵えることが出來なかつた、然るに早朝學校の方で圖を引くことを敎えたのでありまず、それで漸く設計を圖に現すことが出來た。それが丁度獨逸の發明したのと符合したと云ふ廉で、牛場氏からも賞金を貰ひましたし縣廳からも模範となるべき職工であると云ふので表彰もございました。是は早朝學校のことでありますが、此席に香川縣の御方が御出でになるでせうが、香川縣に鷄鳴學館と云ふものがある。是は又妙な話で、或お寺の坊さんでありまず、新聞記者が訪ねて、此寺を斯の通り空寺にして置ても仕樣がないぢやないか、何か善い仕事をなすつたらどうですと云ふ勸めに應じて、それぢア一つ坊主の仕事としては敎育と云ふことが宜いから其方をやらう、近時見る所が郵便脚夫の如きは敎育が足りない、之を何とかしてやつて見やう。然るに是は夜分ではいけませぬ、朝早く敎えんければもう五時六時頃になると廻らんければならぬ、それぢやア一つ早朝から敎育を始めると云ふことで、矢張り同じやうに早朝學校を始めたのであります。幸ひにして孟子の言葉に「鷄鳴て起ち孜々として業を勵む者は堯舜の徒なり」と云ふことがある、それで鷄鳴學館としやうと云ふので良い名を採られたのであります。非常に澤山郵便脚夫が參りました、其書いた字なども澤山ありますが、それが出來てから郵便の間違が非常に減つたと申します。著しい結果を奏して居ると思ひます、三時頃から始めて五時頃までの間二時間ほど敎育する、而も働いて居る所の若い者でありますから、眠いのも無理はない、どうかすると云ふと其學校には麻繩を備へてある、其繩を郵便脚夫其他職工などの、學校へ來る者の家へ配つてあります。其繩の一端を學校へ來る者の足へくゝつて置いて、他の一端は戸の隙間から外へ出してある、すると敎頭に當る先生が朝三時に起きて町を廻つて外から其繩を引張る、大抵の者はそれで起きる。餘りやかましく戸を叩いては主人其他家の者が迷惑である、其本人さへ起きれば宜いと云ふので、其麻繩を是はもう世界無比だらう、日本では無論ないものだらうと云ふので、えらい自慢で住職が出品して呉れたんです、是はごく卑近な例ですが、敎育の必要な事が能く分るのであります。それで此ウヰッコック氏もこう云ふことを申して居ります複雜なる機械を始末するには、職工勞働者も其の機械の中に潜伏して居る技術の幾分を了解しなければならぬ、英國産の良馬は未熟なる御者が之を扱ふと少しも動かぬ、それと同樣に假令一箇の機械は死んで居つても、其機械の中に活きて居る所の精巧なる道理と云ふものを知らぬければ、本當の運轉と云ふことが出來ない、故に職工を敎育すると機械が本當に動く、又本當に動いた機械でなければ良い製作品は得られないと云ふことを申して居る。鐘ヶ淵の紡績工場などは諸君は經濟問題の材料として御覽になる方が宜いでありませう、近頃は鐘ヶ淵で芝居座まで出來て居ります、娯樂を兼ねた敎育の意味でありまず、産業組合も出來て居ります。併ながら無闇に參觀は許さぬ、一遍參觀に行かれると千圓以上も損が行く、工女や職工が傍を向くと糸に屑が出來る、さう云ふ鋭敏なものでありまず、況や平生機械を扱つて居る者の敎育如何に依ては良い糸が出來るのは無理はないのでありまず。先達て私は三重縣を回りまして、室山と云ふ所の製糸場を見ました、其所の伊藤惣左衛門と云ふのが場主でありまずが、工女の品性が惡るいと良い物が出來ぬと云ふので、工女として扱はぬで、養女として扱つて居ると云ふことを申しました。主人の細君は出て一緒に同じ食堂で飯を食つて居ります、まるで工女のやうでなく後から見ると女學生のやうです、又賃金として與へぬので、年期が來て引取る場合に於ては賞與として金を與へる、人の娘を預つてやつて居ると云ふやうな意味で、やつて居るのであります、無論品行なども大變良ひ、吾々は之を名けて家庭組織の紡績工場と云うて居ります。是等も矢張り經濟と敎育と云ふ問題は大變關係があると云ふことが能く分るのであります、是は重に都會の職工であります。

尙ウヰッコックと云ふ人は農村へ行つても、小農の敎育が大切であると云ふことを、えらい言葉を費して申して居りますが、日本でもさうでありますす、六百萬戸農家がありますが、多數は悉く是は小農であります。六百萬戸に五人づゝ掛けても三千萬人と云ふ者は農民でありますが、其中の殆ど五分の四と云ふものは卽ち小農であります、小農の人を本當に育てたならば、農產物を增すことは疑ひない。ウヰッコックは頻りに小農の爲めに農業研究に資する農民圖書館と云ふものゝ先づ急なることを、口を極めて論じて居ります。一體農夫と云ふものは、書物を讀む暇が無いと云ふけれども、適當な書物さへ供給したならば、讀書の要求が從つて起る、百性農夫の讀書時間と云ふものは十分にある、若し其暇を其儘にして置くと子供を打擲し酒屋に行きます。故に小農をして暇な時には、農業研究の何か好い樂みになつて、さうして爲になるやうな書物を與へるのが大變宜いと云ふことを申して居ります。幸ひにして地方でも巡回文庫であるとか云ふやうな物が澤山出來ます、諸君の中には地方の大地主、地方の特志家、其他さう云ふ方の子弟も居られて、父兄の方はさう云ふ設備をやつて居られる方は澤山あると信じます。此農民の爲に設けた、巡回文庫の如き雛型は澤山出て居りますから、御覽を願ひたいのです、各部落を書物の函が回つて歩くやうな仕掛に致すのです、どうぞ是は一讀を願ひたいのであります。

それから彼のカーネギーの事業は諸君は度々聞いて居られませうし、別に珍しいことはありませぬが、カーネギーインスチチユテートのことを一言諸君に御紹介致して置きたいのであります。カーネギーインスチチユテートは德育、智育、美育、卽ち美術の敎育、此三つを兼ねた一つの事業であります。卽ち世界に於ける大事業の一つと言うても宜いのであります。金は七千萬圓ばかり掛つて居る、亞米利加の金で三千何萬弗でありますからそれを一弗を二圓と計算してざつと七千萬圓掛つて居ります。日本では工業學校を造つた、或は大學を造つたと云ふ人はありますけれども、併ながら其金は百萬圓か二百萬圓であります。近頃三井が施療病院を造つたのでありますが、それも百萬圓を出でぬ、千萬圓と云ふ事業を起した人は一人も無い。然るに一人の人で七千萬圓と云ふ仕事です、其點に於て擢んでゝ居ると言はなければならぬ、併ながらカーネギーは金があり過ぎて難義をして居ります亞米利加の新聞ではカーネギーの金をどう使つたら宜いか投票をしろと云ふので、其方法を募集しました。所がお醫者さんは病院を造れと言ひ、美術家は美術館を造れと云ふ、所で多數を取つて見ました所が、圖書館が一番多い、カーネギーは圖書館に出した金が一億萬からになつて百三十あります。其中最も大きいのが彼の事業の最も成功した亞米利加のキユッペ、クの此カーネギーインスチチユテートであるのであります。私が參りました時には七年前のことで小さなもので近頃段々色々な仕事が加はりまして、詳しいことは一讀を願ひたいのでありますが、兒童館もあれば、美術館もあれば、又特許品の陳列所もある、中には圖書館の役人を養成する敎育部があります又兒童の保育掛を養成する所の設備も出來て居ります。それから特に不良少年の爲に開いて居る圖書館がある、町をうろついて居つて仕樣がない者を集めて書物を讀ませう、さう云ふ不良少年の感化部に當る圖書館があります、音樂部は無論の話、質問部と云ふのがあります、是は頗る便利なものである、何か分らぬことがあると電話で聞ける、何でも答へて呉れる、中には文章を書いて居るがどうも適當の古人の訓言を思出せない、何か無いでせうかと言つて聞く、それは斯う云ふ本を見たら宜からうと云つて答へる。中に俳優あたりで、あすこはどう云ふ風に謠つたら宜からうと云ふことを聞くと云ふことが書いてある。商事上の質問をする設備は、日本では甚だまづいのであります、漸く築地の農商務省商品陳列所へ御出でになると商事雜誌は大抵備へて置く、併ながら質問に應ず

ると云ふ設備は、先づ無いのであります、それを話すのはヒラデルヒヤの商事館であります、是は能く質問に應じ、又書籍も見せることにしてあるのです。併ながら商業にかゝるものゝみで此カーネギーインスチチユテートに限つては、智育德育美育と云ふのだから大抵何でも答へなければならぬ、試驗前あたりはでく便利なものです。

カーネギーはなぜ金を使ふことに窮して居るかと云ふと、一體四億萬圓財產がある、其內子孫に遺す金は三百萬圓に限つてある、あとは皆使ふときめてある。卽ち彼の富の經驗と云ふ本に言うて居るのには、男子が一旦地球の上に立つた以上は其立つて居る所の人間を改良しなければ自分は止まぬと云ふ覺悟である、さう云ふ素志であります現に彼は經濟で成功して、今度は敎育の方面に向つて、非常に力を入れた人です。自分の部下に使つて居るジヨンと云ふ是は職工長であります、非常に良く技術のとが出來る、そこで奬勵の爲に之を會社の重役卽ち理事にしやうとしました所がジヨンが斷りました、私は職工が面白いのです、技術をやつて居るのが樂みなんです、どうぞさう云ふいやな重役などは御斷りをすると言つた。其時にカーネギーは非常に悅びました、實にお前は賴母しい人間だ、此好漢愛すべし、就ては翌日から亞米利加大統領と同額の給料を與へると云ふたそうだ。其事を彼は世の中の人にも紹介したいと云ふので、倫敦のテクニカルヂストチユートの雜誌が出來て居ります、工業協會とでも申しませうか、其協會から出て居る雜誌へ載せて、人間の役立つに三通りある、第一がセルフス、オブ、ハンド手の人であります、第二がセルフス、オブ、ヘッド、頭を使ふ人、第三はセルフス、オブ、ハートと云ふので、此ジヨンと云ふ人は此三つの何れにも屬する人であると言うて居るのであります。さう云ふやうな人です、從つて其子孫に金を遺さずして有利なる仕事をしたいと云ふのであります。大學の穗積博士が曾て亞米利加から歸つて申して居りました、亞米利加の財產制度は縱に發達して居らずして、橫

に發達して居る。日本などは縱に發達して居る方であります、卽ち相續をして財產を傳へて行く、相續制度が發達して居から、相續稅などの問題が非常にやかましい、一人の人が亡くなると、其遺產に就ては稅を出さなければならぬ、何十萬圓と云ふ稅金を出さなければならぬ。亞米利加では先づ贈與と云ふとはどう云ふ形式になるか、遺贈と云ふとはどう云ふ形式になるかと云ふ問題が起つて、贈與、遺贈と云ふ問題がやかましい、亞米利加の財產制度は縱に發達して居らずして橫に發達して居る。カーネギーの如きは全部出して公益事業に盡さうと云ふのであります、向ふでは大統領の悴で新聞賣などをして居るのが澤山あります、貧困であるからさせると云ふのでなくて、難義をさせると云ふのです。自分は自分の額の汗をしぼつて拵えた金だから、それで善い仕事をする、子孫は子孫で額に汗して拵えるが宜い、多くの財產を子孫に遺すのは墮落の元であると云ふのは、カーネギーを始め亞米利加人の申して居る所であります其極端な例を私はノーヴエルに於て見るのであります、併しノーヴエルは亞米利加の人ではありませぬ、諸君も御承知の通り瑞典の人であります、瑞典は寒國で何にもならぬ國かと思ふと、中々そうでありませぬ、英佛獨の如き大國に旅行するよりも、瑞典諸威の如き小國に旅行する方が趣味が多い、どうしてステーションなど非常に發達して、敎育など盛んなもので、山林の問題など進んで居る。大きな國へ旅行するよりも、斯う云ふ小さな國へ旅行する方が宜いと云ふので、瑞典などへ行く人が澤山ある。其瑞典の人でありますが斯う云ふ寒國から中々偉人が出るのであります。私は曾て秋田縣へ參つた時分に佐藤信淵先生の例を引いて、斯う云ふ所から立派な人が出るから、東北人であるからと云つて引込んで居る必要はないと申しましたが、實際秋田縣の人は東京などへ出て來るのを、縣外洋行なんと云ふことを言つて居る、縣外洋行とは隨分ひどい、さう云ふ考では東北人の發達は餘程むづかしいのであります。段々てち

らからも鎌田先生始めとして經濟學の方の方が、東北などを廻つて、色々有益なる話をして戴きますのを大に感謝して居るのでありますが、最前申したカーネギーも、實は亞米利加の產でないので矢張り蘇格蘭の人であります。寒國の人であります、格蘇蘭の人が亞米利加へ移民したと言つても宜い位に澤山行つて居る。其次は伊太利であります、子供の時分に阿母さんがカーネギーを抱いて、彼の有名なるバイロンの歌を唄うて聞かして居た。バイロンは働くは神聖であると云ふことを詠んだ人であります、それが元になつて彼はあの如くになつた、十二歳の時に亞米利加へ渡つて紡績の係をして居つた、それから郵便局長のやうな者になり、ずん〳〵出世して遂に鋼鐵王と言はれるやうになつた。自分の鄕里はダンファリンと云ふ所でありますす、でダンファリンで生れた寫眞などが展覽所に出て居りますから何れ御覽を願ひたい。ダンファリンへ一千萬圓ばかりの金を出して立派な公園を拵え、日本の菖蒲を植ゑると云ふ考菖蒲なんと云ふものは馬鹿に出來ないもので中々西洋へ出ます。遠足にお出掛けになつて御覽でせうが、あの蒲田の菖蒲、あれは日本人がやつて居るのだと思つたら、横濱の外國商人がやつて居るものださうで、あれを株にして西洋へどん〳〵持つて行く、カーネギーが東洋の景色をダンファリンに移したい、斯う云ふのは着眼が面白い、町の中に田舍の景色を現はして見たいと云ふのが、彼の志願であります、健康狀態にも宜しい、趣味も變つて面白い。所が公園の前に立札が建つて居る此計畫は日露戰爭前に考へたのであると書いてある、日露戰爭で日本の名が響いたからあれを移したと云ふのではない、其前から考へたのであると云ふことを斷つてあるのです。其外體育大學と云ふものを拵えた、體育の爲に大學を拵える所は一つも無いが、斯う云ふ變つた仕事をしなければ承知せぬのです、彼は金を寄附する時には斯う言うて居る、少々の失策は却つて宜いだらうと言つて居る、大抵は其金を使ふ時には、寄附者の承諾を

得て貰ひたいと云ふのが普通でありますが、カーネギーはさうでない少々の間違があるのが却て宜いと言ふ、さう云ふ風に彼は贈與の條件として言うて居るのであります。さう云ふやうな譯で、カーネギーも寒國の人でありますが、ノーヴエルも寒國の人であります。初めは水雷艇の工場に育つた人間で、ほんの一職工に過ぎなかつたが、段々出世して遂にダイナマイトを發明するに至つた、詳しいことは書物を御覽下さい。日に五十通づゝ手紙を書くと云ふ人です、此手紙を書くと云ふことはビヂネスマンとして成功する基だと云ふ、人に書いて貰つたり何かしてはいけない、人に書いて貰つた返事よりは、自分で書いた返事の方が先方へ通ずる、ビヂネスマンとしては自分で字を書かなくちやアならぬ、此日に五十通づゝ書いたと云ふことは、彼の傳記の中で著しい事柄になつて居ります、大變阿母さんを大切にした人であります妙なもので實業家であつて美術家であります、自分で演劇の脚本を書いたり何かした、語學が非常に達者で殆ど五箇國の語を繰つたと云ふことであります。

ノーヴエルの問題が出ましたが、彼に謝すべき點は彼の遺して行つた遺言狀であります。四千萬圓ばかりの金が遺つて居りましたが、彼が死んだ後に遺言狀を探すけれども無い、そこで是は分配するに限ると云ふので分配の決議をして居つた。所がストックホルムの方から彼の遺言狀が出て來た、驚いて其遺言狀は不當であるから、遺言取消の訴訟を起さなければならぬと云ふ問着が起きたのであります。併し彼の平生の言行から察し性行から察して、是は最も正しい彼の遺言狀であるからと云ふので、四千萬圓の金を悉く出して基金を作つたのであります。彼の考はどうぞ此四千萬圓から生ずる毎年の利子を以て、人類の爲に最も功勞のある人に賞與金をやつて貰ひたいと云ふので有名なるノーヴエル基金と云ふのは、是から起つたのであります。第一に物理學の發見をした者にやつて呉れ、第二に化學の發明をした者にやつて

吳れ、第三に醫學の發明をした者にやつて吳れ、第四に文學の立派な著述をした者にやつて吳れ、第五に世界の平和事業に功勞の著しい者にやつて貰ひたい、斯う云ふ遺言であります。それに依て賞金を受けた者で著しい者はエツキス光線の發明者の獨逸のレントゲン、それから化學の發明者では和蘭人でホツフと云ふ人があります、是は私は能く知りませぬ、醫學では昨年日本に來遊しました黴菌の發明者コツポ、文學では英國人のキプレン、平和事業で賞金を貰ひましたのは、日本の爲に盡力して貰つた彼のルーズベルトであります。是は當然受けて宜いのであります、話は長くすればいつ迄お話して居つても盡きぬのでありますがどうぞ此賞金を受けるやうな人が此中からも出られんことを偏に希望するのであります。

十日まで私は役所に居りませぬがそれからあと三四日十四五日頃から居りますから、經濟問題、社會問題に關する展覽所を開いてありますから、どうぞ見に御出で下さることを願ひます。前田と云ふ人が其方の係で說明者でありますから、其人を尋ねて御出でを願ひたい、皆說明の札を付けてありますから、それを御覽になれば大抵分りますが、矢張り說明して貰ふ方が便利でありますから……。

（拍手）

時評

○士君子の競技　高橋誠一郎

戲に生れて戲に逝く、人生五十年畢竟ずるに戲中に悲喜して再び大自在の手に歸ずるのみ。況んや運動競技の如き戲中の更に戲なるもので、敵と分れ味方と賴みて彼我相攻め相鬪ふ其樣は殊勝にも亦可笑しき次第であるが戲中自ら眞あり、浮世の事一切萬事悉く皆空の戲と觀しながら、尙ほ其間に處して眞面目の態度を失はざるこそ達士の本分である。一校一塾の選手と稱せらるゝ者が學業の餘暇專心一意腕を揮へ技を練りて敵に數歩を先んぜんとするは勿論のこと、一校の責任を雙肩に擔つて立つ光榮ある選手を助けて其功を全ふせしめんとする聲援隊が熱情溢るゝの餘、吾を忘れて狂奔するも亦敢て責む可きの擧でないのみならず、反つて社會に對しては體育奬勵の一端ともなり、學校內では學生の一致團結を鞏固にし、選手にとりては其間自ら品性修養の一助ともなる可きことゝ惟ふ。洵に汎く勸む可きは運動競技の道であつて冷に之を觀る者の眼には時に或は愚か狂かと怪まるゝまでに熱中奔走するも亦何等譴む可きの點有るを見ないのである。

然れども學生の運動競技は田夫野人のそれと其趣を異にせざる可からず、學生は須く士君子の態度を忘れてはならぬ。競技に際しては殊に君子人の坦々蕩々たる態度を保つ可く、決して小人の悵々戚々たるを學んではならぬ、勝つて驕らず、負けて憂へず、畢竟戲中の戲と觀じて勝敗利否物の數ならず、我は唯だ吾が最善の力を盡して戲中の眞を失はざりしに、滿足しなければならぬ。

遮莫、學生に自ら上品下品の別がある、少くとも現下の狀態では一般學生を律するに悉く士君子を以てすることは出來ぬ。學生本來の面目を忘却し學事を等閑にして徒に運動に熱中し三年の課程を六年に履修する者あるとは暫く措き、或は試合出陣の目的を以て規定の課程を卒へながら、猶ほ